



2026年2月26日 一般選抜試験終了後の時計台 あいにくの天気

定年退職を迎えられる教職員の皆様へ

京都大学生協同組合 専務理事 姫田歩

2026年、今春に定年退職をお迎えになられる京都大学生協の教職員組合員のみなさま、長年に渡るお仕事を無事勤めあげられましたことをお祝い申し上げます。

2020年度よりのコロナ禍にあっても、京都大学が創立以来築いてきた自由と調和を基礎とした研究、教育、社会との関係を必ずや継続そして発展させるために立ち止まることなく変化への対応を行われた背景には多大のご苦勞をされたことと存じますし、合せて長きにわたる京都大学でのご功勞に敬意を表します。

あらためて、これまで長らく京大生協をご利用いただき、生協運営にご理解・ご協力を頂戴しましたご厚意に心より感謝申し上げます。

私たち大学生協も、今後どのような形で研究・教育・社会連携による人類福祉への貢献という京都大学の使命を共有し、皆様にどのようにお役に立てるのか、引き続き組合員の皆様に寄り添え続けられるように努力をして参ります。京都大学生協は特にコロナ禍以降、未曾有の経営危機の最中にはありますが、再建しその協同の力が存続できるよう、何卒今後とも温かい眼差しで見守っていただきますよう、ご支援いただけますようお願い申し上げます。

健康に留意され、今後益々ご活躍されることをお祈りいたします。

西部会館ルネ・キャリア&トラベル (外線) 771-6289 (内線) 7639	吉田ショップ 752-1587 7632	北部購買 753-7633 7633	南部生協会館 752-1586 7635	時計台生協ショップ 753-7630 7630	宇治生協会館 0774-38-4388 17-4388	桂ショップ 383-7300 15-7300
ブックセンタールネ 771-7336 7631	洋書 751-6183 7631	PCセンタールネ 753-7636 7636	コンベンション サービスセンター 753-7655 7655			

京都大学での思い出：理学―生協―旧霊長研

大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室人類進化論研究室
中川 尚史

執筆のきっかけは、遑って考えると生協を脱退しようとしたことにあります。退職が近づいて来たため生協での課金を使い切ろうとしたら、今はスマホにアプリを入れることが必要だとのこと。高齢者あるあるです。無事アプリを導入したところそこには電子組合証があり、おかげで加入時の出資金があったことを思い出させてくれました。その出資金が1984年に農学部で学生として入学した時のものなのか、2006年に理学研究科に准教授として奉職した時のものなのかは定かではありませんが、もうひとつの生協「終活」として、出資金を返還してもらうことにしました。生協Webサイトにアクセスして調べたところ、脱退申請書をダウンロードして郵送する必要があることが分かりました。「ここは郵送なんや？」と突っ込みを入れつつ従うと、数日後封書が届き、「教職員情報」2025年3月26日号が同封されていました。正直言って、脱退する段になって初めて目にした機関誌でした。パラパラと捲ってみると今山稲子教職員委員長の署名記事が掲載されていました。彼女は、生物科学専攻図書室に長年職員として務められ、かつ京大生協で活動されていることは当時から聞いていましたので驚きはしませんでしたし、その記事では彼女が企画したイベントの数々が紹介され、私もよく知る先生方が登場し懐かしく拝読しました。

その今山さんが、2月19日に研究室に突然お見えになり、退職にあたり「教職員情報」に京都大学の思い出を書いて欲しいとおっしゃるわけです。そしてそれは山越言組合常任理事（アジア・アフリカ地域研究研究科教授）からの指令だといいます。山越さんは私が旧霊長類研究所（以下、旧霊長研）の大学院生だった頃の後輩なので普段であれば嫌なら断ればしまいなんですけど、そのちょうど1週間前に大学の業務関係で大きなお願い事をしたところでした。彼が私には「貸しがある」ことを意識していたかは分かりませんが、「中川さんなら2月中に必ず書く」との私にとっては途轍もないプレッシャーとなるコメントまで添えた指令でした。そこに私の退職記念イベントに参加できないので挨拶に来てくれた元大学院生が突然現れ、オンライン会議開始時刻も迫る中、ドタバタと2月中に原稿を送ることを約束し執筆したのがこの原稿です。

京都大学での思い出と言っても、教員時代だけでも20年余りありますので、ここは生協にまつわる思い出話を披露します。ひとつは、2017年5月23日にショッブルネで開催された「私はこうして研究者になった 動物研究の魅力と意義」というテーマのトークイベントの講師です。講師は、私のほかに比較認知科学が専門の藤田和生文学研究科教授が予定されていました。藤田さんは旧霊長研時代の先輩で、当時の対象はチンパンジーでしたが文学研究科に異動後はオマキザル、その後イヌやネコなどにも対象を広げ、「動物ばんざいの会」という研究会（<https://www.psy.bun.kyoto-u.ac.jp/banzai/>）を創設されていました。最寄駅が隣同士であったため通勤途中にお目にかかり、彼が教えて下さった地下鉄東山駅から

の徒歩での通勤路をご一緒させていただくこともたびたびでした。ところがその藤田さんがイベント直前に病に伏され、急遽代役に立ったのが山越常任理事でした。山越さんも私も主にアフリカの野生霊長類を対象にした生態学的研究をしてきましたが、山越さんは大学に入ってから目指すようになったのに対し私が幼少時から夢見てきたという対照、二人とも人類の進化と起源の解明を霊長類研究の大義と掲げていますが、山越さんがチンパンジーという人類と近縁な霊長類からアプローチするのに対し、私は遠縁のパタスモンキー（図1）やニホンザルからアプローチするという対照が興味深かったという声をいただきました。また、参加者にはやりたいことが見つからない学生さん、夢見ていたが挫折を味わった学生さんなど、それぞれに悩みの解決の糸口を探っている方もいて、前者には山越さんの話が、後者には理学部には入学できず農学部に入學後、理学の大学院に入學して夢を叶えた私の話が胸に刺さったとの感想をいただきました（図2）。本トークイベントは、ルネのブックイベントの一環でもありましたから、拙著はもちろん、「若者におすすめしたい本」、「私を作った本」、「私を研究に導いた本」、「研究生活を導いた本」などに分けて紹介しました。その中で「私を作った本」のひとつとして、1973年4月（当時、中学2年）に平凡社から発刊された月刊誌『アニマ』を挙げました。「アニマ」では、京都大学の野生霊長類の研究成果が生き生きとした写真とともに何度も紹介されて



図1



図2：左から、山越さん、中川、中田さん



図3

いたことから、その内容に魅了されるとともに、京大理学部に入學すれば夢であったアフリカで野生動物の研究ができることを知ることができました（図3）。

もうひとつは、2023年5月30日に吉田食堂で開催されたX-Academy『知識との出会い』という新入生向けの座談会への登壇です。こちらは、京大生協X-Academy実行委員会という学部学生が主体の団体が主催しており、登壇者は5名で各登壇者が2回の座談会を開催するので、参加者である新入生も2つの座談会に参加できる形式になっています。その当たり的大枠については、代表者からまずは説明を受けた上で引き受けたのですが、私の座談会をどういう内容にするかの詳細は、後日グループリーダーが研究室を訪ねて決めていくとのことでした。さて、その後日がやってきてグループリーダーがひとり研究室に来たのですが、ひととおり互いに軽く自己紹介はして席に着いたものの、彼（そう男性です）は一向に話しを始めようとしません。しびれを切らした私が、「ほんで、今日は何の話すんのやったっけ」と話を振っても無言。「座談会で何の話すんのか決めたらええんよな」と追い打ちをかけても、「はい」ぐらいは言ったかもしれませんがほぼ無言。切れそうになりながらもそこは耐えて、

ものの、彼（そう男性です）は一向に話しを始めようとしません。しびれを切らした私が、「ほんで、今日は何の話すんのやったっけ」と話を振っても無言。「座談会で何の話すんのか決めたらええんよな」と追い打ちをかけても、「はい」ぐらいは言ったかもしれませんがほぼ無言。切れそうになりながらもそこは耐えて、

まずは彼の面談をする感じになりました。そこで彼が明かしてくれたのは、対人関係が苦手でコミュニケーションべたな自分を変えたくて、この実行委員会に入ったということでした。「なるほどそれは動機としてはありやな」と思いつつ、グループリーダーとして派遣する以上は実行委員会として彼を「変えて」からにして欲しいとは強く思いました。彼の意見は聞けないので、最終的には「人類とは遠縁の霊長類研究からの人類進化研究（ニホンザルのハグの文化、パタスモンキーの肢が長いのは何のため）、野外調査の醍醐味、アフリカの毒、夢（目標）を持つことの強み、それを叶えるのに必要なこと」など幾つかの話題を列記し、座談会の参加者に選んでもらうことにして当日を迎えました。本座談会の目的のひとつが「文理関係なく自分の専門分野以外の分野に触れ興味の幅を増やす」ことにあったので、2回の座談会合計25名の所属学部はさすがに理系が多いものの文系含め全学部にわたっていました。そして肝心の内容は、それぞれの回で「ニホンザルのハグ（図4）の文化」と「パタスモンキーの肢が長い（図1参照）のは何のため」といういずれも学問的な内容が選ばれ話すことになりました。まあ、専門外の学問に触れることが第1目的ですから、当然の帰結だったのかもしれませんが。そして第3の目的である主体的に考え、発言するという点についても、質疑の時間で何名かは達成してくれたように思います。こうして参加者が「変わっていく」ことを意図して企画されているイベントですが、大きく「変わっていく」のは実は企画している学生さんなのだと思います。私の座談会のチームリーダーの学生さんも、きっと大きく変わって、卒業されたことを確信しています。

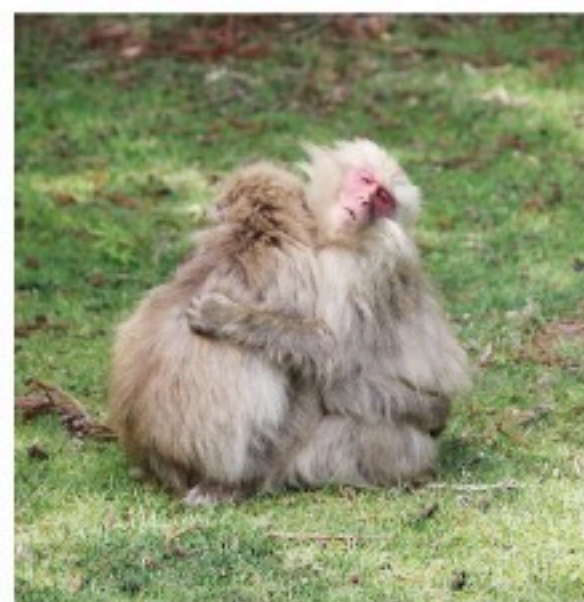


図4

さて、トークイベントで司会を務めて下さったのは、中田兼介京都女子大学現代社会学部教授でした。中田さんは、私の主宰する人類進化論研究室と同じ動物学教室にある動物生態学研究室出身で、造網性クモ類の捕食行動の研究者です。彼は、日本動物行動学会の英文機関誌Journal of Ethologyの編集長を経て、現在会長を務められています。この学会は、私が農学部2回生だった時に動物学教室の動物行動学研究室の日高敏隆教授を初代会長として設立され、私が最初に会員となった学会でした。この学会の中で、中田さんは若い頃から動物行動の映像データベースを構築し公開するプロジェクト（Make Our Movies Open: MOMO）（<http://www.momo-p.com/>）を立ち上げ運用されてきました。実は、このトークイベントが開催された2017年度に、MOMOに似せた「生物学映像・画像アーカイブの構築」を目指した事業が京都大学総長裁量経費に採択されました。本事業は、私が代表者となった生物科学専攻としての取り組みになりますから、動物のみならず植物や細菌も含み、個体以上を対象としたマクロ生物学から分子・細胞レベルのミクロ生物学までも

網羅する映像・画像アーカイブを目指しているところがMOMOとは異なる点です。トークイベントのほぼ1カ月後にあたる6月27日に開催した専攻に向けた趣旨説明説明会に、中田さんをお招きしてマクロ系データベースの実例としてMOMOの紹介をしていただいたという繋がりがありました。

私としては特異分野ではない事業ではありましたが、大勢の方々の協力を得て、ほぼ1年後の2018年6月19日記者発表に漕ぎ着けました（図5）。



図5

その名称は、京都大学（Kyoto University）のいわば YouTubeであり、今後は他専攻に続いてもらうことを期待してのとりあえず生物科学版ということで KyU Tube Bio（キュー・チューブ・バイオ）。動物学教室、植物学教室、生物物理学教室の全18研究室から合わせて102点の映像（動画）と156点の画像（静止画）が収録され、新聞3紙に掲載され華々しくデビューを飾りました。しかし2019年3月には専攻の事業から理学研究科の事業としてその地位は向上したものの、維持費の関係もあって理学のサーバーへの移行に伴い、各研究室で直接更新することができなくなりました。さらには、2023年4月4日をもって、京都大学情報環境機構の映像収蔵管理配信サービス（Kaltura）が終了し、ウリである映像が見れなくなってしまい現在に至っています（日本語版：<https://sci.kyoto-u.ac.jp/ja/research/kyutubebio>; 英語版：<https://sci.kyoto-u.ac.jp/en/research/kyutubebio>）。詳細検索で静止画を選べば出てくる静止画なら今でもご覧いただけるのでぜひお試しください（図6）。生協にまつわる思い出を巡らしたどり着いた、（もはや瀕死の状態ですが）目に見える形で私が京都大学に残したものとして紹介させてもらいました。

実はもうひとつ、私が晩年相当時間費やして残したものが、3月上旬大学本部から記者発表されます。私が大学院生、およびポストク時代を過ごした旧霊長研の再改編です。冒頭で書いた山越さんへのお願い事とは、この再改編の今後を後輩に託すことでした。乞うご期待！

最後に、脱退申請書はまだ発送していない瀕死の状態ではありますが現役組合員として、エールを送りたいと思います。コロナ禍以降、未曾有の経営危機の最中にあるとのこと。対面での議論を重視し、さらには海外でのフィールドワークを生業としている人類進化論研究室も、コロナ禍で危機に陥りました。しかしこちらはなんとか持ち直しつつありますので、生協さんもぜひ以前同様、対面イベントを企画しつつ再建を目指していただけるよう祈念しています。



図6



ウシ、ヤク、スイギュウ、ヒツジ、ヤギと戯れた40年間

大学院農学研究科畜産資源学分野
熊谷 元

2006年4月に広島大学から古巣の京都大学に異動して、20年となる3月に退職を迎えます。研究対象として家畜、特に反芻動物の生産生理や飼料開発に関連する研究を、京都大学農学研究科の大学院修士時代からかれこれ40年間続けてきました。国内では大学院附属牧場、京都府農林水産研究センター、滋賀県畜産技術振興センター、民間の牧場と共同し、肉牛や乳牛を対象として、近畿地方で産出される農産・食品副産物資源の飼料化や第一胃由来のメタン低減資材の開発を行い、そのパイロット試験として北部構内の飼育棟で緬羊や山羊を用いた試験を行ってきました。一方、海外の研究機関との共同研究として、タイ国プリンスオブソンクラ大学および農業省畜産局家畜栄養研究センターとはタイ在来種牛や山羊を、ネパール国トリブバン大学および農業省農業研究センターとは水牛や乳牛を対象として、当該地域で産出される農産・食品副産物資源の飼料開発と給与試験に携わりました。新たな発見も多く、現地での生活は楽しく、刺激的でした。それらの在外研究の中で最も思い出深い、ネパール西部の山岳地域でのヤクを対象とした調査研究について触れたいと思います。

以前から、ネパール東部のソル・クンプ地域や、中部のランタン地域でのヤク生産と移牧に関する調査研究は多かったのですが、私が注目したのは西部のムスタン地域のヤク生産でした。この地域はガンジス川上流のカリガンダキ溪谷沿いにあり、古くからインドと中国との交易の要衝であり、ヒンズー教・仏教の聖地であるムクティナートを擁することから往来が活発ですが、近年自動車道の建設が進み、以前に増して人や物の移動が多くなりました。上記の先行研究では、ヤクやヤクとウシの交雑種の乳利用を中心とした小規模生産が主体



森林限界を超えた標高4,000 mの草地から
カリガンダキ溪谷を見下ろすヤク

ですが、私が調査した村落では、ヤクとウシの生育地は完全に分かれて交雑は一切なく、農家によっては100頭近いヤクの群を管理する大規模な経営体が多く、肉利用目的のヤクの販売が大きな収入源でした。さらに4月の祭礼時（クンカネメラ：ヤクの血（を飲む）祭り）では中央ネパールの観光地であるポカラや首都カトマンズから人々が参集し、ヤク所有者は頸静脈から血液を採取して参拝客に販売する他、多くのヤクが屠畜され、肉が販売されます。2010年から2016年にかけて、ヤクの体重・体格測定、血中代謝産物やミネラル含量分析から健康状態を詳細に調査するとともに、

G I S やリモートセンシング技術を駆使した草地情報とGPSを搭載した首輪を装着したヤクの放牧行動情報を組み合わせ、最終的には適切な放牧密度や移牧方法を地域に提言することを目指していました。

カトマンズ北部を震源とするマグニチュード7.8の地震が発生したのは2015年4月25日、クンカネメラでの調査もほぼ終了し、下山が近づいた頃でした。首都では多くの建物が倒壊し、国内死者9,000名を数えましたが、調査地は震源から直線距離で200km近く離れていたため、コップの

水が揺らぐ程度で大地震の認識は皆無でした。問題はそれからで、携帯電話やインターネット、ラジオ・テレビ等ほぼすべての通信網が遮断されました。どうやら大変なことが起こっている。私はとにかく調査に同行した大学院学生2名は無事であることを大学とご実家に連絡しようにも手立てがありません。その間、農学研究科には研究科長の下に対策本部が設置され、日本から現地への連絡を試みましたが、不調です。連絡が取れるようになったのは、1週間後、国内線でカトマンズに戻ってから（余震の恐れがあるので車は不使用）です。あれから11年経ちますが、皆様を心配させてしまったことは本当に申し訳なく思っています。

危ない目にも遭うこともある在外研究ですが、畜産分野の在外研究—特にアジア・アフリカ地域—の意義は十分あります。今後もこの地域の人口増加は顕著で、農作物、特に畜産物の需要は当該地域の経済発展に伴って急増します。一方、今後農地として利用可能な土地は、特にアジア地域では限られています。一方、アジア・アフリカ地域の家畜の数は多く、品種は多様ではありますが、繁殖、泌乳、増体、肥育等の能力は改善の余地があります。今後アジア・アフリカ地域の畜産は、農産・食品副産物資源の有効利用が基本ですが、他方耕作不適地（山地、乾燥地等）の畜産利用も考慮する必要があります。京都大学教員としての私自身の研究は終わりますが、この分野の研究の意義を理解して引き継いでくれる方々を支援していきたいと思っています。



左から時計回りで ヤクの首にGPS 首輪を取り付ける著者（背中（こちらを向くのは大学院学生））、ポータブル体重計で体重測定、クンカネメラで屠畜され販売中のヤクのお肉

探検大学の温かな土壌

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
竹田 晋也

この三月、私は定年退職の日を迎えます。世に「探検大学」と称されるこの京都大学で1979年に学生生活を始めて、最後には教員としてこの日を迎えることになります。今この原稿を書きながら思い出すのは、整然とした講義室の風景よりも、森のぬかるみや、風に吹かれた遠い記憶の数々です。

学生時代は山岳部に身を置き、深い考えもなくただ「高い山へ登ってみたい」と思っていました。インドのCB31、ブータンの未踏峰ガンケルプンツム、そしてマサコンと山々と向き合った日々は、今でも昨日のこのように鮮明に思い出されます。研究の道もまた、予期せぬ出会いから始まりました。カルカッタの古本屋で偶然手にした一冊の本に導かれてタイ北部で森林研究を始め、その後ミャンマーやラオスの森を歩き続けることになりました。目的さえ定かでないままに歩き回ったあの時間が、結果として研究者としての地平を拓いてくれたのだと感じています。

アジア・アフリカ地域研究研究科では、臨地教育・国際連携支援室を設置し、海外エクスプローラープログラムを運営しています。学生が現地に赴き、自らの五感で確かめることを後押しする制度です。語学力の向上、フィールドワーク、資料収集、さらには社会経験を目的としたインターンシップまで幅広く支援しています。ここで大切にしているのは、「まずは歩き出す」という彷徨を許容することです。もちろん、安全確保には細心の注意を払いながらも、未知に踏み出す探求心を尊重してきました。

山岳部長（教職員が務める顧問にあたる役職）を務めた2020年からの数年間は、私にとって心穏やかでない日々でもありました。コロナ禍という不測の事態により山を禁じられた部員たちの行き場のない熱量を感じても、何もすることができませんでした。しかし活動が再開されると、今度はその活動に付きまとう危うさが気になりました。若者が未踏の領域をめざすときに、それを見守る側が背負う責任の重さです。祈るような気持ちで彼らの下山を待つ時間の中で、かつて私を送り出してくれた恩師や先輩たちが抱いていたであろう思いを数十年遅れで追体験させていただいたように思います。

今、私たちはAIの時代を迎えています。あらゆる事象に最適解が求められ、予測不能な回り道や非効率な下積みは敬遠される傾向にあります。クリック一つで答えに辿り着ける現代の視点から見れば、私たちが過ごした途中の過程だらけの時間は壮大な無駄に見えるかもしれません。

しかし、どれほど技術が進歩し効率化が進もうとも、最後に道を切り拓くのは、自らの足で歩き、微かな違和感を感じ取り、正解のない問いに立ち向かう探求心そのものです。京都大学が自由の学風を掲げ、探検大学であり続けられる理由は、単に過去の伝統があるからではありません。見通しの立たないことに挑もうとする若者を危うさを承知で見守り、背中を押し、そして旅立ちを見送る、その寛容さとそれを支える教職員、そして生協をはじめ大学関係者の皆様といった温かな土壌がここに脈々と息づいているからではないでしょうか。

気が付けば、多くの方々に支えられ、ようやく定年という一つの峠に辿り着くことができました。私がかつてそうであったように、今春、新たな旅に出ようとしている学生たちが、この豊かな土壌から健やかに飛び立っていくことを心から願っています。予測不能な未来は、常に新しい可能性を生成し続ける創発のプロセスそのものです。その未来を自らの足で切り拓いていく若き世代の活躍をこれからも楽しみにしています。



マサコン峰（7200m）の前進ベースキャンプ（5390m）に集まった「京都大学ブータンヒマラヤ学術登山隊」の登攀隊員15名です（1985年9月24日撮影）。次の日から本格的なルート工作がはじまり、頂上にたどり着いたのは10月13日でした。2025年10月13日には、京都大学ヒマラヤ研究ユニット主催の研究会「マサコンから40年：ブータン研究の軌跡と展望」が開催されました。

素晴らしい植物に感謝

理学研究科 教授
鹿内 利治

私は2026年3月末で定年を迎えます。30代半ばで研究分野を変えてから、ほぼ30年にわたり植物の光合成を研究してきました。

光合成と聞くと、「なんだか難しそう」と身構える方が少なくありません。実際、原子や分子といったミクロの世界から、地球環境というマクロなスケールまで、幅広い知識が関わる分野です。

光合成とは、大気中の二酸化炭素を、私たちを支える有機物へと変えるしくみです。そのエネルギー源は太陽の光。中心にあるのは、「光の力で水を分解する」という反応です。このとき生まれた電子やプロトン (H^+) が、二酸化炭素を固定するための化学エネルギーを生み出します。そして副産物として放出された酸素が、現在の「酸素20%の大気」をつくりました。私はこの反応を、「地球で最も重要な反応」と呼んでいます。

しかし実は、光合成は植物にとって大きなリスクも伴います。光合成は、緑色の色素クロロフィルが光により励起されることから始まります。この励起エネルギーがうまく利用されなければ、活性酸素という有害な分子を生み出し、最悪の場合、植物自身を傷つけてしまいます。

そこで植物は、光エネルギーの受け取り方と使い方を巧みに調節する、非常に精緻な制御機構を発達させてきました。新緑のまぶしい緑は、私たちの目を楽しませてくれますが、その葉の内部では、いまだ完全には解明されていない高度な防御機構が絶えず働いています。



イメージ

そして秋。光合成の役目を終えた葉では、危険をはらむクロロフィルが分解され、あの紅葉が現れます。

光合成と光防御のしくみは、実に精巧で、研究を続けてきた私自身も畏敬の念を抱かずにはられません。



定年退職を迎えられる方へ 出資金返還のご案内

長きにわたり京大生協をご利用いただき、誠にありがとうございました。
ご定年を迎えられる方への、生協出資金の返還についてご案内いたします。

1 京大生協の脱退を希望される方

お預かりしている出資金をお返しいたします。各生協
ショップのカウンターか、京大生協のWebページから
申請書をダウンロードしていただき、郵送にてお手続きください。

京大生協 脱退

検索

2 組合員資格の継続を希望される方、また2026年4月以降も継続して勤務される方

- 京大生協定款第6条より、引き続き京大生協のご利用を希望される方は、「退職教職員」として組合員資格を継続していただくことができます。
- 京大生協のWebページからお手続きいただくか、生協ショップのカウンターにてお手続きください。

Webでお手続きの方はこちら



<https://www.s-coop.net/procedure/change/>

受付店舗

- ・時計台生協ショップ・北部購買部・南部購買部・宇治購買部・桂Bショップ
- ・生協本部内組合員センター(吉田ショップ2F)

- 引き続きご勤務される方で、認証ICカードの変更が発生する場合、上記店舗にてカードの切り替え手続きと、所属変更のお手続きをお願いいたします。

新しく京大へ来られた方へ 生協加入のご案内

京都大学生協は、京都大学でお仕事をされている方ならどなたでもご加入いただけます。
雇用形態に関わらず、派遣職員の方や個人秘書の方など、
どなたでも京都大学生協へご加入いただく事ができます。
ぜひ京都大学生協にご加入いただき、
キャンパス内にある生協店舗のご利用をお願いいたします。

京都大学生協加入資格基準 及び出資要請口数

京都大学に在籍する教員（名誉教授含む）	70口	28,000円
非常勤講師	10口	4,000円
京都大学に在籍する大学職員（正職員・再雇用職員等）	70口	28,000円
京都大学に在籍する上記以外の大学職員 （時間雇用職員、個人秘書、京都大学への派遣職員、支援職員等）	10口	4,000円
各種研修員（日本学術振興会特別研究員等）	10口	4,000円
京都大学内の団体（VBL内ベンチャー企業等）に勤務する方	70口	28,000円
京大生協の取引先、京都大学出入り業者、 大学内の工事等に従事する方	10口	4,000円

※教職員の皆様にかかる箇所を抜粋した略図になります。

詳細な加入資格基準及び出資要請口数は、京大生協HPよりご覧ください。

総代会へ ご参加ください！

京都大学生生活協同組合（京大生協）は、京都大学に所属する学生および教職員により、1949年に設立されました。

京都大学に所属する、「みんな」が出資する事で、店舗を利用する事ができ、「みんな」がひとくちオーナーのように運営に関わる事ができる組織なのです。

「総代会」では、
生協の一年間の
運営方針や、
予算の決定を行います。そして、
「総代会」に参加できるのが
組合員さんから選ばれる
「総代」です。



みんなで出資

出資金を支払うことで
組合員になります。

出資金：70口 28,000円

これにより
「生協の共同所有者」となります。
出資金は卒業時に
返還いたします。

総代になって教職員の立場から
生協の方針に
ご意見ください。



京都大学 生活協同組合

京大の学生・教職員の
ねがいを実現します
健康で安全な学生生活を送り
学業を継続できること

みんなで利用

生協が提供する
商品やサービス等を利用します。
さまざまなイベントや企画なども
あります。

みんなで運営

生協は、利用者である
組合員の意見や要望に基づき
事業を展開しており、
組合員の代表（学生・教職員）である
総代や理事により
運営されています。

京大生協には 皆さんの声が必要です！

組合員の皆さんの意見や
要望を反映する事は生協の
運営に必ず必要な事なのです。京都大学教員組合員・職員組合員の皆さんのご協力、よろしく
お願いいたします。

※生協店舗・We サイト等に掲載される予定の、総代選挙についての公告をご確認
いただき、総代に立候補ください。

※総代立候補者は、総代選挙管理委員会が定める日時に生協組合員であることが
必要です。

4/1 **水**
公告予定！

営業時間変更のお知らせ

2026年**4月8日(水)**より

	平 日	土 曜	日祝
中央食堂	8:00 ~ 15:15	閉店	閉店
北部食堂	11:00 ~ 20:00	11:00 ~ 14:00	閉店
カフェテリア	11:00 ~ 21:15	11:00 ~ 19:00	閉店
※4月7日(火)までは短縮営業期間になっておりますのでご注意ください。			

いつも京大生協食堂をご利用頂き、誠にありがとうございます。
誠に勝手ながら4月8日(水)より営業時間を変更させていただきます。
組合員のみなさまには大変ご不便をおかけいたしますが、何卒
ご理解ご協力いただけますようお願い申し上げます。

今後とも、皆様にご満足いただけるサービスの提供に
努めて参りますので、変わらぬご愛顧を賜りますよう、
心よりお願い申し上げます。



生協ポイント付与方法 変更のお知らせ



2026年

3月から

企画やキャンペーンなどにて
特定の商品にまとまったポイントを
一括付与！

これからは
「NF 応援フェア」
「小鉢をもう1品取ろう」などの
ポイントバック企画を
増やしていく計画です。



2月までは

生協電子マネーの利用に対して
一律に 0.5% のポイントを付与

ポイントの積み立てができないので2~3円にしかならない

ポイントがいつ付いて、いつ使ったか気づきにくい

状態のため、
運用方法を変更いたします。



京大大学生協

教職員委員会へ 参加してみませんか？



京大生協教職員委員会では、委員会メンバーを募集しております。概ね月に1回程度、お昼休み（対面参加の方には昼食をご用意します！）に行っております。生協へのご意見をお寄せいただいたり、生協で何かをしてみたいという方、何かコミュニティに入りたいという方、ぜひ教職員委員会へのご参加お待ちしております！

これまでの活動例（一部抜粋）

- ルネでのブックイベント
- 京大図書館巡り
- 福島スタディツアー
- 教職員情報の編纂 など
- 京大若手研究者紹介
- 鹿害学習会
- 賀川豊彦スタディツアー
- 京大生協音楽会
- 酒蔵見学会
- PeaseNow！広島・沖縄・長崎

※毎回の参加でなくてもかまいません。参加できる時に参加をお願いします。

※他キャンパスなどお越しになれない場合は、ZOOMでのご参加も可能です。

※2年に一度、全国教職員委員セミナーを開催し、全国の教職員委員会の方々との交流や、活動事例の紹介等を行っています。

<全国教職員委員会とは？>

全国教職員委員会は、生協を通じて行われる教職員活動の全国的なとりまとめを行っています。特に「学びと成長、読書+α」「食と安全」「平和と民主主義」「協同組合」「環境と防災」の5つの専門プロジェクトを中心として、教職員の専門性を活かしながら、教職員の生協活動を進めています。これらの取り組みの成果は、2年に一度開催される全国教職員セミナーにおいて、活動内容の交流と教訓化を進めています。近年大学の中での生協が果たす役割も大きくなっているため、教職員委員会は、各会員生協における教職員組合員の生協へのニーズの把握や大学の運営と生協事業を結ぶ役割も担っています。

一度、見学してみたい という方はぜひ

京都大学生協同組合 理事会室 堀内紀宏

horiuchi.toshihiro@univ.coop までご連絡ください！

